

## 北村正司先生：「英語教育」45年の歩み

学長 伊 藤 森右衛門

北村正司先生のご経歴には、一筋の太い線が貫いている。言うまでもなく、英語教育へのご献身ということである。苫米地英俊先生および木曾栄作先生などの恩師が作り上げた英語教育の途を忠実に歩まれた。しかし、時代の移り変わりに即応した新しい途も拓かれたのである。

戦前の英語教育と戦後のそれとの距たりは、英語教育という領域だけでは埋めつくせないものがあった。先生は、本年3月3日最終講義を行われがが、そのなかで外国語教育についての心構えやプロセスを説かれた。先生の豊富なご体験と高いご識見とから、戦前と戦後との距たりを埋められたのである。この最終講義での教育論は、専門のものばかりではなく、専門以外のものにとっても数多くの示唆と教訓を与えて頂いたのである。

英語教育とはいうものの、一般的にいうと教育そのものである。先生のお人柄を知る人は、教育者としての真摯な態度とひたむきな情熱とが英語をオブラートしていた。学生諸君も、英語を履修しているのであるけれども、先生のお人柄に敬服し切っていて、英語を媒介として人間教育をうけていたのである。ある学生は、「どうすればよい英文が書けるか。」と問うと、先生は「知らず知らずに会得できるから……」と答えられ、本人が授業をうけてそうであることが判ったと述懐している。先生の教授ぶりには感じ入るばかりである。

先生はかつて「時事英語学会」で英語によるシンポジウムに参加され、流暢な英語と明解な論旨で、他の参加者を圧倒したと聞いている。先生の発音がきわめてナチュラルであることは、外国人講師をはじめ諸先生のひとしく感嘆するところである。また、先生の書かれる紹介状や推薦文は、名文であ

り、かつ親身なフィリーングが伝わると賞讃されている。本学でいまでも「商業英語」をご担当されているが、道内における第一人者であり、先生の指導は学内に止まらず、商社などに及んで、多くの優れた人材を育てられた。

標題に「英語教育」45年の歩みと書いたが、現在、北海道英語教育研究協会の会長を務められ、また北海道薬科大学教授として、さらに何十年とつづけるわけで、先生の益々のご健勝を祈って止まない。